

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	運動療育センターすきっぷ 香椎浜教室		
○保護者評価実施期間	R7年 3月 1日		～ R7年 3月 8日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	44名	(回答者数) 16名
○従業者評価実施期間	R7年 3月 1日		～ R7年 3月 8日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 3月 18日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門的な知識をもとにアセスメントを行い、利用児童の発達支援に多面的に寄与するより良い方法を弛まず模索し続けている点	スタッフが会議を行う際に、利用児童の状態や課題についてきちんと把握した上で会議に臨めるよう、日頃より情報共有と意見交換の機会を持てるよう配慮している。また、意見を言い合える環境づくりにも努めている	より充実したものとなるよう、専門的な知識の拡充とその共有を目指した研修や部会を実施していく
2	面談などを通じて、利用児童や保護者の方の意見を取り入れるとともに、現在、将来を包括的に考え、本当に必要となる力を利用児童、保護者の方と共に見出ししていく体制の充実	面談の際には、利用児童や保護者の思いを汲み取るための十分な時間と会話の技術の獲得、支援者としての意識の充実に努めるとともに、質問紙や事前準備と振り返りによって多様な意見を取り入れつつ検討できるよう、会議の機会を設けている	連携の場や機会の充実とともに、より利用児童の自己選択の力を育むため、さらに利用児童の参画の場面を増やしていく仕組みと方法作りに取り組んでいく
3	日々の支援のための会議において、児童一人一人に提供する支援の内容を拡充する目的での検討時間を長く担保している点	業務の効率化などにより、支援会議を行える時間を十分に確保するとともに、会議内容の充実のため、利用児童の情報や課題の共有を多媒体を活用して行なっている。また、日々の支援内容が持つ意味とより良い支援の充実のために不可欠なスタッフの知識の拡充も絶えず継続している	日々の支援がもつ意味や期待される効果、その効果の最大化のために何が必要かを皆が考えることができる知識の蓄積を目指している。また、画一的な支援とならないよう、個々の利用児童に必要な支援との関連付けができるためにも、人員の確保と質の向上、職場環境の向上など、多面的に目的の実現へ努力と配慮を継続している

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	包括的な支援を行うための他事業所や地域との連携の部分	児童の経歴や未来像の予測と、ライフステージの変遷を見通した支援の発想は、連携をとり、相互に理解を深めることで可能となる部分も多々あると考えています。	より積極的に、他事業所の方々と関わる機会を設け、また、地域の方々と会話して互いに知り合う機会、学び合う機会を設けるよう、鋭意活動を行なっています。
2	家族支援プログラムの部分	ご家族の支援を考える際には、デマンドとニードの弁別と児童及び保護者の方を中心とした発想が不可欠であると考えています。押し付けとならず、本当に必要な支援を提供していくために、知識の蓄積と方法の検討、ご家族との対話をより充実させていく必要があると思います。	ご家族との会話の機会をこれまで以上に増やしていく努力を行なっているところです。面談の場だけでなく、送迎でお会いする機会、文でのやり取りやお電話など、機会を設けては相互理解を深めていきたいと努力しております。
3	自己決定する力を育む支援の部分	お子様への支援をするにあたっては、成熟度など勘案する点も多く、保護者の方の思いをお聞きする機会や、ご説明の機会を多く設けていますが、対象者を中心とした支援に思いを致したとき、可能な限り意思を汲み取る取り組みを行えているかと自問する部分があります。	児童の意見や目標を聞く機会を必ず設けるとともに、今後は面談の場などにも参加できる機会が増えるよう、児童の負担を鑑みつつ、検討を重ねて行っています。